
個人でも、組織であっても 環境適応能力が高いものが 生き残り 成長発展を遂げることは間違いありません。今回はこれに関しての私見を述べていきます。科学の進歩と情報の過多により 現代の1年は昔の数年や数十年あるいはそれ以上とされています。またその加速度も上がってきています。だから、IT機器の取り扱いなどは、たいてい若者にかないません。彼らは一見すると適応能力は高いようですが、応用が利かないことが多いように見受けられます。複雑なことを覚えたり真似たりすることは得意でも、なぜそうなるのかといった原理原則をしっかりと理解してはいないようです。器用で沢山のことを知っているが深みがなく応用力に乏しいようです。私の周りだけでもかもしれませんが、そんな人が増えてきたように思えます。これでは、今回の震災のように 想定をこえる非常事態にうまく適応が出来るか心配になります。(もっとも、人は危機的状態になれば普段出ないような優れた知恵が出ることは考えられますが)。そして特に、気が付かないうちに迫るゆっくりとした大変化や危機には対応が難しいかもしれません。

現代人(特に若者の)こうした性質の原因は、学校教育と日常の生活トレーニングにあると思います。まず、教育ですが、大多数が高卒以上で受験のための勉強を行ってきました。それ自体悪いことではありません。しかし、試験に出る問題は答えが一つで、採点や評価が簡単ものがほとんどです。世の中には最良と言える答えはあっても、最適解(正解)はないことが多いです。また、立場によって答えが異なる場合もあります。知識の教育と創造性の教育はどちらも大事であり、両方バランス良く一定の量をこなす必要があるはずですが、次に生活トレーニングですが、現代では物が豊かにあるため、工夫し努力することが少なくなり、選択し購入することで生きていくことができます。特別なものを求めないかぎり大抵のものはそろいます。遊び道具、着るもの、最近は料理も。材料を購入し、デザイン(計画)し、制作(加工)することが少なくなりました。衣料は補正することなしに、既製品の合うサイズ選ぶのがふつうです。このような便利な生活環境が、仕事などにおいても、応用の幅を狭めていて、自分で考えることなく、楽に情報や知恵を探すことに力を入れます。世の中には、ピッタリと当てはまる事例は限られていますから、仕事でこうしたやり方を取る限り成功は難しいでしょう。たまたまあっても、競争相手は多いので勝てる可能性はわずかです。

では、環境適応能力を高める方法をいくつか紹介しておきます。

- ・若いうちに正しい思想、哲学を勉強する。
- ・なぜそうなのか と世の中の現象や他人の意見の理由や原因を深く考える習慣をもつ。
- ・同業者の成功事例よりも異業種の成功事例を研究し、かたちを変えて何とか応用出来ないか努力する
- ・製造業ならば素材、または最終ユーザーについて情報を集め研究する。
- ・異業種交流は、営業や人脈づくりの場と考えず、自社改革のためのヒントを収集する場にする。
- ・分業が進んでいる仕事でも、たまに全部や日頃やらない仕事をやってみる。
- ・売れている商品に触れたり 流行っている店に実際に行ってみて体感し、その理由を考えてみる。
- ・いつも習慣になっていることを、時々意識的に変えてみる。(新しい発見が得られます)